

宮崎美砂子先生を偲んで

本学会元理事長の宮崎美砂子先生が2024年6月25日にご逝去されました。享年64歳でした。

先生は、2001年から千葉大学大学院看護学研究院教授で、研究科長・学部長、副学長も務められました。病氣療養しながらも最終勤務日は6月19日でしたので、突然にお別れを迎えたように感じておられる方も多いと思います。

先生は、階段を降りるように急激に体調が悪化するなか、ご自身が担当していた教育、研究、地域貢献の仕事をほぼ自ら遂行、または後任に引き継ぎをされ、関係者が困らぬように責任をもって差配されました。心より「お疲れさまでした。ゆっくり休んでください。」とお伝えしたいと思います。

本学会においては1997年に会員となられ、編集委員長（2009年7月～2012年6月）、第12回学術集会長（2009年8月8日）、災害支援のあり方検討プロジェクト委員長（2012年8月～2015年7月）、そして理事長（2015年6月～2023年6月）を務められました。理事・監事歴は2003～2024年であり、長きにわたり本学会の発展に力を尽くされました。

私は、先生が理事長時代に総務理事でした。就任当初に、先生は私といっしょに任期中のスケジュールをみて、特に社員総会と選挙については定款の条文も読みながら確認されたことをよく覚えています。常に根拠となるものに照らして確認する姿勢は学会以外の仕事でも同様で、仕事に向き合う姿勢を学びました。

先生の理事長時代のご活躍といえば、まず「地域看護学の再定義」でしょう。2018年には地域看護学に関する教育のあり方について検討し、厚生労働省看護基礎教育検討会に「看護基礎教育における地域看護学の必要性和教育内容・方法に関する要望書」を提出されました。また、2019年には厚生労働省看護基礎教育検討会、ならびに、文部科学省大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会へ、「看護基礎教育における地域看護学の必要性和新設に関する要望書」をそれぞれ提出されました。

また、2020年4月～2021年9月には新型コロナウイルス感染症パンデミックにより緊急事態宣言が発出され、理事会や学術集会も対面から書面やオンラインに切り替えざるを得ませんでした。学会の対応として、会員等の活動に速やかに役立つよう、学会ホームページに、新型コロナウイルス関連情報特設サイトを立ち上げられました。また、厚生労働省から本学会に協力要請があり、学会員が、感染症対策に係る保健活動の専門的・技術的支援の実施および厚生労働省における感染症対策に係る業務を実施しましたが、理事長としてその陣頭指揮をとられました。

昨今、本学会は会員数が微減状態で学会の活性化が課題でした。先生は、2021年7月24日の理事会で理事長・副理事長の連名でワーキンググループ設置の提案をされ、課題、提案事項、活動期間、活動推進エンジンチームと次世代研究活動推進チームの趣旨とメンバー案をA4用紙1枚にまとめ説明されました。だれもが納得できる内容でその場で承認となり、翌年には実践促進委員会、次世代育成推進委員会として発展していることは周知のとおりです。

宮崎先生の姿勢や活動は、私たちが導くものであり、功績は決して忘れ去ることはありません。心から感謝と敬意を捧げます。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

2024年12月

石丸 美奈（千葉大学大学院看護学研究院）